

# 社会システム研究所

Institute of Social Systems



## びわこ・くさつキャンパスならではの人文社会科学系研究所として 地域とともに、学際的視座からよりよい社会の在り方を追求する

社会システム研究所は、広く社会システムに関する研究調査を行い、学術文化の向上に寄与することを目的として、1998年、経済学部・経営学部のびわこ・くさつキャンパス（BKC）への移転を機に設置されました。本研究所では設置当初より、人文社会科学分野における総合的な共同研究の実践を重視しており、BKCのキャンパスコンセプトであった「文理融合」の理念とともに、学際的な研究を推進してきました。このため研究テーマはいわゆる狭義の社会システム論あるいは理論・政策・歴史という古典的範疇に留まらず、政治・経済・文化・地域・福祉・健康など広範な研究課題を扱っているのが特徴です。

当初は経済学部・経営学部と理工学部間の連携がメインでしたが、学部の新設や移転等により、現在では経済学部・スポーツ健康科学部・食マネジメント学部・生命科学部・理工学部の教員を中心に他キャンパスや学外の研究者も参画する学際的な組織となりました。

2020年以降、コロナ禍で経済活動の在り方が見直されており、地域における取り組みが注目されるなど、社会の在り方は大きな転換期を迎えています。社会システム研究所はBKCにおける唯一の人文社会科学系の研究所として、文系的基盤を下支えせんという意気込みのもと、旺盛な活動を進めています。

## 研究の活動

本研究所の活動の柱は、①学内公募形式のプロジェクト研究、②紀要『社会システム研究』の発行、③シンポジウムや研究会の開催、の三つです。

プロジェクト研究は、研究所を牽引するような特色ある研究を育てるべく学内公募形式で実施しています。研究者が自主的にプロジェクトを立ち上げ、研究所の目的に沿った基礎研究や社会のニーズに立脚した応用研究を行っており、これまでに多くの成果が生み出されてきました。

紀要『社会システム研究』は1999年3月に創刊され、これまでに40号以上を発行し、150本以上の査読論文、そして多くの査読研究ノートや調査報告を世に送り出してきました。厳格な査読制度を導入しており、研究所内のみならず幅広く学内外の研究者による投稿論文を集める雑誌に成長しました。

シンポジウムや研究会は、研究成果発信および学内外との意見交換の場として定期的に行っています。シンポジウムではこれまで実証研究、優れて現代的な話題、そして学界における主題や地域課題などについて議論してきました。シンポジウムは原則、公開実施としており、教職員や大学院生のみならず広く学部生や市民の方々も参加可能です。研究会においても若手研究者を正式メンバーとして迎え入れるなど、社会的課題を取り扱う研究所として、常にオープンなアカデミズムを大切にしています。

これらの活動は非常勤の研究者や大学院生の研究活動を支える役割も担っており、新進研究者のキャリアパスに対する貢献も研究所の役割の一つと考えています。

## 研究プロジェクト テーマの例

- 再生可能エネルギーの投資・消費行動に関する実験的研究
- 地域包括ケアシステム構築における医療福祉系協働の役割と機能についての研究
- アジア社会・文化・経済をめぐる歴史研究プロジェクト
- マクロファイナンスへの総合的取り組み
- 小学校高学年時の運動習慣形成のための授業評価の作成に関わるプロジェクト
- コロナ禍に対応する持続可能な食ビジネス地域支援システム構築の検討
- SDGsをプラットフォームとした新たな教育パラダイムの創出・実践・量的評価指標の開発

## 紀要「社会システム研究」査読論文の例

- 日本のサービス企業で働く外国人労働者が早期離職した共通原因及び考察
- 戦時中中国占領地における台湾拓殖株式会社の子会社と台湾総督府—海南島占領後の畜産業を中心に—
- 都市農村交流施設による地域社会の企業間ネットワーク構造と地域政策的含意—長野県伊那市のコミュニティにおける社会ネットワーク分析を中心として—
- 大学生の食意識・食習慣と立命館大学「100円朝食」の利用に関する実態分析
- アクティブラーニングおよび主体的・対話的で深い学びと学生の成長のあいだにはどのような関係があるのか
- 法教育に対する「法化」論の射程—裁判員教育との関係について—

## シンポジウム・セミナー テーマの例

- 地域づくりのビジョンと行動—医療と介護をめぐる住民・事業者・行政の役割を考える—
- 21世紀型のもの・ひと・地域づくりの新構築をめざして—個人の輝きを高めた地域産業の再生—
- 人づくりと地域づくり、当事者としての大学の役割を考える
- 外資系企業誘致による地方産業の展望
- 地域再生と再生可能エネルギー—「福島」が問いかけるもの—
- 東アジアの中の日中関係—40年の発展、現段階と今後—



研究所長：金丸 裕一（経済学部 教授）  
 主な研究拠点：びわこ・くさつキャンパス  
 お問い合わせ：立命館大学 研究部 BKCリサーチオフィス TEL: 077-561-3945 FAX: 077-561-3955 ✉: social-s@st.ritsumei.ac.jp  
<http://www.ritsumei.ac.jp/research/center/iss/>